

3月26日（日） ショートメッセージ

聖書 ルカによる福音書 23章13節～25節 （新約 157頁）

メッセージ 「いったいどんな悪事を」

ピラトは三度目に言った。「いったい、どんな悪事を働いたと言うのか。この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」

（ルカによる福音書 23章22節）

（1）イエス様は、ユダヤの最高法院での裁判（22章66節～73節）、ローマからユダヤの総督として派遣されていたピラトの尋問（23章1節～5節）、ガリラヤの領主ヘロデの尋問（6節～12節）を受けました。なお、洗礼者ヨハネを死に追いやったのもこの領主ヘロデでした。

（2）最高法院での不当な裁判の結果、イエス様の身柄は総督ピラトの元に送られました。ピラトはイエス様を尋問した後、祭司長たちや群衆に対し、「この男に何の罪も見いだせない」と伝えました。しかし祭司長たちが納得しなかったため、ピラトはイエス様がガリラヤ出身である事を聞き、この時エルサレムに滞在していたガリラヤの領主ヘロデの元に送りました。

ヘロデはイエス様の噂を知っていました。また、イエス様は不思議なしを行ふと聞いていたので、以前から興味を持っていました。しかし、興味津々のヘロデの問い合わせに、イエス様は何も答えません。もちろん、何のしるしも行いませんでした。結局、ヘロデは祭司長や律法学者たちがイエス様を激しく訴えるのを聞き、兵士たちと一緒にイエス様を侮辱した上で、その身柄をピラトの元に戻しました。

再び自分のところに差し戻されたイエス様に、ピラトが判決を下す時が来ました。

ピラトは祭司長たち、ユダヤの議員たち、そして民衆を呼び集めてこう宣言しました。「あなたたちは、この男を民衆を惑わ

す者としてわたしのところに連れて來た。わたしはあなたたちの前で取り調べたが、訴えているような犯罪はこの男には何も見つからなかった。ヘロデと/orても同じであった。それで、我々のもとに送り返してきたのだが、この男は死刑に当たるようなことは何もしていない。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」（14節～16節）

しかし、集まった人々は「その男を殺せ。バラバを釈放しろ」と叫びました。バラバは暴動と殺人の罪で投獄されていた重罪人です。ピラトはイエス様を釈放しようと思っていました。しかし、改めて民衆に呼びかけても、人々はイエス様を「十字架につけろ、十字架につけろ」と叫び続けました。ピラトは三度目の呼びかけを行いました。「いったい、どんな悪事を働いたと言うのか。この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」（22節）

しかし、イエスを十字架へと要求する人々の声は、ますます強くなりました。

（3）結局、ピラトは人々の要求どおりバラバを釈放し、無罪のイエス様を人々に引き渡しました。それは、イエス様を殺す許可を与えた事と同じです。

ピラトに積極的に働きかけて無実のイエス様を十字架へと追いやった人々と、消極的であったにせよ結局このような判断を下したピラト。その思いはどうあれ、どちらの責任も重いと思います。（多田玲一牧師）